各個室と収納は、杉の無垢材を使用。調湿、脱臭効果が高い。

トイレの出入り口には、目隠しの壁を立ち上げた。

玄関ホールは広く取り、扉を開けた瞬間に白川建設の特徴である「木の家」が体感できる。造作の壁面収納も空間美を担う。

和室には、書院、床の間、広縁を設けた。掃き出し窓からは、庭を眺めることができる。桧の化粧柱も見どころ。

部屋に居ながら、木のぬくもりを感じることができる。

左は国の重要文化財の広瀬邸で、右が展示場。調和するようにレンガの壁をデザインした。

この土地にとけこむよう設計していった展示場の入り口。約100年前のリメイク壁もある。

白川建設が考える
家の本当の価値とは？

白川建設は、古くから伝わる木造軸組工法で家を建てています。地震大国日本でありながら、いくつもの神社仏閣が美しい姿で形を残しているのは、木の組み方や継ぎ手、職人が一邸一邸に知恵や技術を使い時間をかけ家づくりをしていき、それを代々継承してきたからです。

現在は、それに様々な金物が加わりさらに強固なものとなりました。ですが、木で軸を組み造るのが木造軸組工法の基本です。金物に頼る工法ではなく、木の組み方だけで十分な強度を保つことが重要だと思います。それを工場加工ではなく手刻み加工で建てることに、どれほどの価値を感じていただけるかだと思います。

庭から見た住まい。ウッドデッキを設けて、庭と家とのつながりを持たせた。

昔からある石も活用。年月とともに苔も成長し、庭に深みを持たせている。

この住まいを設計する上で、一番こだわったのが庭。他のどこよりも和室からの眺めを優先し、それから各居室の配置を考えていった。和室から見る庭は絵画のようで、新緑や紅葉など表情豊かに季節の移り変わりを告げる。